

レースにあたっての審判上の諸注意

- ① 今大会は「日本ローイング協会競漕規則」と「大会要項」、そしてこの代表者会議および「審判上の諸注意」の指示事項に基づいて行う。
- ② 安全は何よりも優先する。練習中および回漕中も、航行ルールや競漕規則を守り、十分に安全に配慮すること。事故や故障があった場合、速やかに近辺の審判員等に連絡をすること。
- ③ 舵手の計量は、規定の時間に漕艇場審判棟3階にて行う。計量はユニフォームのみ(アンダーシャツ・タイツ・靴下・帽子などすべて除くこと)で行う。規定の重量(男子種目は55kg、女子種目は50kg)に達しない場合、最大限15kgのデッドウェイトを持つことができるが、これが必要な者は自ら用意しておくこと。デッドウェイトは固形物(水に濡れても容易に重量の変化しないもの)に限る。なお、必要に応じて、デッドウェイトをひとまとめにできる手段を各自で用意すること。(例：デッドウェイトとして使用する工具を袋に入れる)
- ④ メンバー変更届、棄権届、ブレード不統一願などあらゆる文書は、競技開始1時間前までに競漕委員会に届け出ること。なお競漕委員会の特別の許可がない限り、メンバー変更はあらかじめ届け出た補欠の範囲内でしか行えない。シート変更(漕手間の変更)の届出は必要ない。
- ⑤ 各クルーは同じユニフォームを着用し、服装(アンダーシャツ、タイツ、靴下等を含む)は統一されていること。またその服装のどこかにクルー名が入っていること。帽子・はちまきについては、着用の有無の統一は必要ないが、着用する場合は必ずクルーで同じ物とすること。なお、舵手はユニフォームに加えて他の衣服を着用しても良い。この場合、必ずユニフォームの下に着用すること。今大会は一齐に「監視」を行う部署を設置していないが、審判が各部署において、主に目視にて「監視」を行い、随時、指導や注意、警告を与えることがある。
- ⑥ 規定の泳力のない者は必ず救命胴衣(ライフジャケット)を着用するか、救命具を携行するものとする。各クルーは泳力のあるなしにかかわらず、安全確保のために必要な装備を備え、万全の体制でもってレースに参加すること。
- ⑦ 各クルーは自らのレーンを示すバウナンバー(プログラム等に記載されたレーン)を艇首に装着すること。なお、規定のバウナンバーは以下の通りである。
*材質：プラスチックまたは木製、 寸法：25cm 横15cm 厚さ2mm、 色：白地に黒文字
- ⑧ 安全のため、落水などの緊急時に漕手が速やかに艇から離脱できる(シューズが外れる、もしくはヒールロープにより足がすぐにシューズから外れる)「クイックリリースフットストレッチャー形式」を備えた艇で出漕すること。これに違反した場合、除外や失格などの罰則が与えられることがあるので注意すること。
- ⑨ 出艇前および出艇後、艇の故障等で発艇定刻に遅れそうな状況が生じたときには、速やかに近辺の審判員に連絡すること。この場合、競漕委員会の許可を得た上で原則的には最大限2レース分の猶予を与える。できるだけ故障等が生じないように事前に艇の点検・整備を十分に行っておくこと。なお、審判に連絡をしたとしても、発艇定刻2分前に遅れた場合や、発艇定刻の変更を生じさせた場合は、イエローカードが与えられる。

- ⑩ レースおよびレース前後の回漕中・練習中、違反等の行為に対して指導や警告が与えられることがある。航行ルール違反は警告の対象となるので、コースおよび練習水域のルールを熟知しておくこと。
- ⑪ 同一ラウンド内で2回のイエローカードを受けると「レッドカード」となり、そのレースから「除外」される。また、レース終了後の回漕中等に「イエローカード」を受けた場合で、次レースがあるときには、その「イエローカード」はそのレースに持ち越される。
- ⑫ 各クルーは原則として発艇審判員の呼び込みに従ってコースに入るものとし、発艇定刻2分前までに発艇位置につけておくこと。「発艇」は定刻に行うことを原則とするが、天候やコース状況により定刻を前後することがある。各クルーは2分前以降、いつでもスタートできる態勢を整えておくこと。発艇は発艇員の判断で行うので、クルーが猶予を求めることはできない。
- ⑬ フォルススタート(不正なスタート)の場合、その原因を引き起こしたクルーには「イエローカード」が与えられる。
- ⑭ 自己のレーンを守り競漕すること。主審より注意および方向の指示等があった際には速やかにそれに従うこと。緊急時(レーンを外れ、他クルーと接触する危険がある場合を含む)、白旗により当該クルーのみ停止を求めることもありうる。また、状況により、競漕から遅れたクルーを主審艇が追い抜く場合があり、波を受けることもあるが容赦してほしい。
- ⑮ 安全第一の観点から選手の落水、艇の転覆はただちに救助することを原則とするが、速やかに自力で安全に回復・再乗艇できるクルーはレースの継続を認める。ただし、乗艇に手間取り、次レースに影響が生じたり、安全上問題があると判断した場合は救助するので了解しておくこと。
- ⑯ クルーがフィニッシュラインに到達すると、判定よりブザー(音)にてその旨を知らせているが、機器の不具合等により正確に鳴らない状況がありうるので、クルー自らが目視でフィニッシュラインを確認し、過ぎるまで漕ぎきるようにすること。
- ⑰ レース終了後、主審が白旗を挙げレース成立を示すまでは、その場に待機すること。この際デッドウェイトを持つクルーについては確認を行う。なお主審はフィニッシュライン前でも白旗を挙げることがあるので注視しておくこと。レースに対する異議がある場合は白旗が挙がるまでに申し出ること。
- ⑱ 今大会は予選でレッドカードを受け、除外となったクルーの敗者復活戦への出場を認める。この場合、他クルーとの公平を期すため予選レースで全距離を漕了していなければならない。この際、まじめな態度および正常な競漕速度で漕了しない場合、または、接触・妨害をおこした場合は失格となる。
- ⑲ 艇内に許可データ(タイム、ストロークレート、艇速/加速度、心拍数)を収集するために、その機能を有する機器や装置(携帯電話を含む)を持ち込むことは許されるが、レース中(出艇時から帰艇時まで)にこれら機器により外部と交信したり、データを送受信してはならない。このような使用をした場合は失格となる。

以 上